

## 2025年度 北星学園附属高等学校に関する第三者評価

評価者:根来 真実(臨床心理士・LD 学会会員)

### はじめに

本評価は、北星学園附属高等学校の教育活動および学校運営について、教育学および臨床心理学の視点から多角的に検証し、その成果と課題を明らかにすることを目的として実施したものである。特に本年度は、生徒支援体制の充実や学習・進路・部活動の広がり注目し、学校全体の教育的機能について評価を行った。

### 1. 学校全体の特徴と発展性

本校は、これまで推進してきた ICT 教育および DX 化の基盤の上に、教育活動の質的向上を図る段階へと確実に移行している。教職員の主体的な実践に支えられながら、教育内容の刷新と個別最適化の視点が徐々に浸透している点は高く評価できる。

また、学校全体として「チーム北星」としての一体感が醸成されており、学習・進路・部活動といった異なる領域が分断されることなく、生徒の成長を支える統合的な教育環境が形成されていることは、本校の大きな特色である。

### 2. 生徒支援体制の充実(臨床心理学的視点から)

2025 年度よりスクールカウンセラーが配置され、従来のスクールソーシャルワーカーと連携した支援体制が構築されたことは極めて意義深い。生徒の抱える課題は多様化・複雑化しており、心理的支援と社会的支援の両面からアプローチできる体制は、現代の学校教育において不可欠である。

また、日常的な教育活動の中でも、生徒の困り感に対して教職員が丁寧に応答しようとする姿勢が見られ、専門職からの助言を活かしながら支援の質を高めている点が評価できる。今後は、支援の個別最適化と同時に、予防的・開発的な観点からの全体的な支援(ユニバーサルデザインの視点)のさらなる充実が期待される。

### 3. 学習指導および進路指導の成果

本校では、生徒の多様な学力層に対応した指導が展開されており、個々の進路希望に応じた支援体制が整えられている。特に 2025 年度は、慶應義塾大学、青山学院大学をはじめとする難関私立大学への合格者

を輩出しており、学習指導の成果として高く評価できる。

同時に、系列である北星学園大学国際学部への進学を含め、生徒一人ひとりの志望に応じた進路実現に向けた教育が行われている点は重要である。単なる進学実績の向上にとどまらず、「その生徒にとっての最適な進路」を実現しようとする姿勢は、教育的観点から極めて意義深い。

#### 4. 部活動と学校文化の形成

部活動においては、サッカー部、野球部、男子バスケットボール部、吹奏楽部が全道大会の常連校として高い成果を上げている。また、美術部においては全国大会に出品される作品が生まれており、文化的活動においても顕著な成果が見られる。

特筆すべきは、これらの活動が単なる競技実績にとどまらず、生徒同士がコースや活動の違いを超えて互いを応援し合う文化を形成している点である。同じ学校に属する仲間として支え合う姿は、「チーム北星」という言葉に象徴されるように、学校の教育的価値を体現している。

#### 5. 総合的評価と今後への提言

北星学園附属高等学校は、学習・進路・部活動・生徒支援が相互に関連し合いながら、生徒の全人的成長を支える教育を実現している学校である。特に、専門職との連携による支援体制の充実は、今後の学校教育のモデルとなり得るものである。

今後は、これらの取り組みをさらに組織的に整理し、教職員間で共有することで、教育の質の一層の向上が期待される。また、心理的支援の観点からは、生徒理解に基づいた指導と環境調整を一体的に進めることが重要である。

#### 総括

本校は、生徒一人ひとりの可能性を引き出す教育と、仲間と共に成長する共同体としての学校文化の両立を実現しつつある。今後も「チーム北星」としての歩みを深めながら、時代の変化に対応した教育の発展を期待する。